

JA全農 WEEKLY

6
7
面

トッデイズ アグリニュース
「TODAY'S AGRINEWS」メインパーソナリティー
鈴村健一さんインタビュー (広報・調査部)

4面



新型コロナ感染防止対策で、JA-POP甲子園2020の表彰店舗を店舗に出向いて表彰(4面)

ポップ
UHA味覚糖と全農が共同開発した新感覚グミ「コロロ八丈フルーツレモン」(8面)



インタビューで農業関係者には「感謝」、たくさんの人たちには食べる喜びをこれからも伝えたいと語る鈴村健一さん(6-7面)

2 落花生収穫で労働力支援の「見える化」実証(千葉県本部)

福島県の新たなブランド米「福、笑い」試験販売開始(福島県本部)

3 お笑いタレント・小島よしおさんと「特別授業 田んぼの生きもの調査 秋編」公開(広報・調査部)

長崎みかん丸ごと「長崎みかんチューハイ」販売(長崎県本部)

5 JAズームイン(京都:JA京都やましろ)

8 新感覚グミ「コロロ 八丈フルーツレモン」新発売(営業開発部)

「雪若丸に合うおかず」と「雪若丸」をセットで発売(山形県本部)

JAタウンショップ紹介
JA全農あおもり

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

表彰店舗決まる(耕種資材部)

JA-POP甲子園2020



News!



落花生収穫で労働力支援の「見える化」実証

生産者・障害者の不安や課題を取り除き農福連携進める

千葉県本部



立派に完成した落花生ぼっち（落花生の山）と参加した皆さん



協力し合いながら「地干し」作業を進める参加者

千葉県本部営農支援部は10月下旬、成田市の営農技術センターに設置した実証用の落花生圃場^{ほじょう}で、障害者就労支援に向け、落花生の収穫作業の実証を行いました。

当日は「社会福祉法人まごころ」協力の下、特定非営利活動法人「千葉県障害者就労事業振興センター」、

「千葉県農業者総合支援センター」と連携し、障害者就労支援の一環として、収穫作業の「地干し」と「ぼっち作り」について実証しました。

農福連携を進めるに当たり、生産者・障害者双方の不安や課題を取り除くため、作業にかかる時間・精度・委託費の設定等モデルを示す「見える化」を行うことが必要不可欠です。当日は初対面にもかかわらず和やかな雰囲気の中、予定していた作業を終え、データを収集することができました。

今後とも生産者と障害者が良きパートナーとなれるよう取り組みを進めます。

News!



福島県の新たなブランド米「福、笑い」試験販売開始

来年産からの本格販売へ向け弾みに

福島県本部



アンケートに答えた方にプレゼントする「福、笑い」オリジナルミールキット



「ふくしま米」をけん引するトップブランドと位置付ける「福、笑い」



「福、笑い」は「ふくしま米」をけん引するトップブランドと位置付け、令和3年産米からの本格販売に向けて、11月10日から令和3年1月11日まで、福島・東京の百貨店やアンテナショップ、オンラインショップなどで

福島県本部は、福島県オリジナル品種「天のつぶ」「里山のつぶ」に続いて、県が14年もの月日をかけて完成させた新たなブランド米「福、笑い」の試験販売を、11月からはじめました。

試験販売を行っています。

試験販売では、専用HPで販売店舗の情報を発信するとともに、1月15日まで消費者にアンケートを実施。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で100名様に「福、笑い」オリジナルミールキットなどをプレゼントします。

香りが立ち、強い甘みを持ちながら、ふんわり柔らかく炊き上がる「福、笑い」。日本料理店分とく山の野崎洋光総料理長が「どんな料理にも合う、驚きのおいしさ。食卓の主役になるごはん」と称した「福、笑い」を、ぜひご賞味ください。

「福、笑い」はJATAウン「福島ショップ」でも試験販売を実施しています。

JATAウン
「福島ショップ」は
こちら





お笑いタレント・小島よしおさんと「特別授業 田んぼの生きもの調査 秋編」公開

7月に続く第2弾は秋の田んぼを紹介

広報・調査部

小島よしおさんと講師の2人



「特別授業 田んぼのいきもの調査」は、小島さんが実際に田んぼに入って田んぼにいる生きものを捕まえて観察したりして、その魅力を紹介する番組で、7月に続く第2弾です。

全農は、YouTubeで小学生向けの授業動画「おっぱっぱー小学校」が人気のお笑いタレント・小島よしおさんとタイアップし、「田んぼの生きもの調査」の魅力伝える番組「特別授業 田んぼの生きもの調査 秋編」を公開しました。

「特別授業 田んぼのいきもの調査」は、稲穂が広がる秋晴れの田んぼで、カエルやバッタ、トンボなど田んぼの周りにはいる生きものを調査。また、小島さんが鎌を使って稲を手刈りしたり、コンバインでの稲刈りを体験したりしています。番組の最後には、生きもの調査を実施した田んぼで出来た米で作った「おむすび」を食べ、「味付けなしでもこんなにおいしいんだ！」と驚く場面も。

YouTube
「特別授業 田んぼの
生きもの調査 秋編」
はこちら



全農広報部
田んぼの生きもの
調査Twitterは
こちら



番組では小島さんが、秋の田んぼや生きもの魅力を子どもたちに伝えていきます。ぜひご覧ください。



長崎みかん丸ごと「長崎みかんチューハイ」販売

長崎県JAグループとアサヒビール(株)のコラボ企画

長崎県本部

長崎県本部と長崎県JAグループは「長崎みかん」の認知度向上・消費拡大のため、アサヒビール(株)と共同企画した「長崎みかんチューハイ」を、11月3日の「みかんの日」に合わせて販売を始めました。

長崎和牛焼肉ぴゅあをはじめとする取扱店舗では、アサヒビールの「樽ハイ倶楽部」にみかんジュースを加え、長崎みかんを丸ごと

1個使用した「長崎みかんチューハイ」を提供しています。

10月30日に長崎県庁で行った報告会で、中西英雄県本部長は「今年のみかんは糖度が高く、品質がいい。県民のみなさんに新しいスタイルで長崎みかんを味わっていただきたい」と話しました。



長崎県本部のリンアイブランドのジュースもPR



長崎みかんチューハイ

J A - P O P 甲子園 2020 表彰店舗決まる

開催20回の歩みを糧に来年度からリニューアル

全農は今秋、JA資材店舗での農業などの陳列・POPを競い合う「JA-POP甲子園2020」の表彰店舗を決めました。例年、東京都内で開いている表彰大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、全国各地の全農職員が表彰店舗に向いて表彰しました。

【耕種資材部】

今年度は、「ラウンドアップ部門」と新設の「自由創作部門」で審査しました。自由創作部門では地域の生産物や生産環境に合わせて自由にテーマを設定し、そのテーマに沿

った陳列を実施しました。応募店舗では、タマネギやエダマメといった地域の特産物や、「店舗のおすめ肥料・農薬」といったテーマ設定の下、地域の組合員目線に立った陳列がされていました。また、開催20回を記念して、これまでの参加回数や受賞歴も加味した「ベストナイン賞」を設定し、表彰しました。

販促するという方法は、多くの店舗で取り組まれるようになりました。さらに、工夫を凝らした陳列が、組合員とのコミュニケーションにつながったといった効果も見られました。

新大会「JA資材店舗CS甲子園」へ

「JA-POP甲子園」は2002年にスタートし、今年度は記念すべき開催20回目を迎えました。これまでの参加店舗は全国で延べ7598店に上り、大会を通して、店舗スタッフの意欲向上や人材育成に加え、ラウンドアップなどの定番品目を、POPや一等地陳列で

JA-POP甲子園は、さらなるパワーアップを目指し、来年度から「JA資材店舗CS甲子園」としてリニューアルします。CS甲子園では、これまでの陳列中心の取り組みから、商品管理やクリンリネス(整理・整頓、清潔な状態を保つこと)、接客など、店づくり全体を評価する取り組みへと幅を広げるとともに、JAならではの商品や売り場づくりによる競合店との差別化や、早期陳列の再徹底によって、店舗の活性化を図ります。そして、大会への参加をきっかけに、売り上げアップはもちろん、組合員に愛される店舗であり続けることを目指します。

CS甲子園は以下の三つのCSに取り組む

- ・Customer Satisfaction (農家組合員の満足度の高い店づくり)
- ・Coordinate the Store (JAらしさを意識した店舗のコーディネート)
- ・Challenging Sales (JA重点品目の早期陳列・販売の徹底)

2020大会の主な表彰店舗

部門	賞	陳列幅	県名	JA名	店舗名
ラウンドアップ部門	最優秀賞	大型	島根県	JAしまね (斐川地区本部)	斐川グリーンセンター
		簡易	愛媛県	JAおちいまばり	JAグリーンしまなみ大三島
自由創作部門	最優秀賞	-	京都府	JA全農京都	農業の店亀岡
自由創作部門	ベストナイン賞	-	秋田県	JA秋田ふるさと	大雄営農センター
			茨城県	JA水戸	南部営農資材センター ひぬまセンター
			埼玉県	JAふかや	北部営農経済センター
			富山県	JAあおば	婦中営農経済センター
			富山県	JAあおば	大山営農経済センター
			三重県	JA三重中央	農作業支援センター一志
			島根県	JAしまね (斐川地区本部)	斐川グリーンセンター
			岡山県	JA晴れの国岡山	総社西農産資材店
			愛媛県	JAおちいまばり	JAグリーンしまなみ大三島



ラウンドアップ部門大型陳列で最優秀賞を受賞したJAしまね 斐川地区本部 斐川グリーンセンターのディスプレイ



茶生産者の経営安定へ ブランド化、商品開発

J A京都やましろは、京都府の南部が区域で大阪府、奈良県、滋賀県、三重県の県境に位置し、京都市、大阪市、奈良市の隣接の都市部地域と滋賀県、三重県の県境の中山間地域を併せ持つ5市6町1村の地域です。宇治茶と京野菜の2大ブランド産

地です。

抹茶ブランドで付加価値を

同JAは、日本遺産第1号「日本茶800年の歴史散歩」に認定されているやましろ地域の宇治茶文化と歴史を守るとともに、コロナ禍による茶価の低迷が管内の宇治茶生産者に危機的な影響を与えている中、抹茶の販路拡大を通じて茶生産者の経営安定を図るため、2017年に商標登録した「抹茶」を前面に打ち出した商品を展開し、やましろ産抹茶の販路開拓を目指しています。

高級品から一般消費者が気軽に使用できる商品、加工用抹茶まで幅広くライン

アップ。大山乳業農協のアイスマルクに提供し、今年7月の発売以降4万箱（1箱8本入り）を販売している他、抹茶を使ったブラウニーやフィナンシェ、マドレー



「喫茶チェリー」の抹茶パン



「大福屋なかむら」の抹茶プレート

又などJA独自商品の開発販売も進めています。
**宇治茶需要の拡大狙い
スイーツ開発にも力**
JAオリジナルスイーツの開発とともに、大手菓子メーカーや全国のスイーツ店、料亭、レストランなどに抹茶を使った商品開発を積極的に依頼しています。また、同JAの渉外係が訪問先で抹茶を紹介し商品化につながるなどJAを挙げて取り組んでいます。開発を検討する企業には抹茶を提供。商品化が決まった際は、抹茶濃口ゴが入った販促用のプレートやのぼりを貸与して店頭でのPRにつなげるのが狙いです。
既に山城地域の菓子店な

JA京都やましろ（京都府）



概要 令和2年3月末現在

第1号組合員	1万3504人
第3号組合員	1万8247人
職員数	315人
販売品取扱高	60億9千万円
購買品取扱高	37億8千万円
貯金残高	3465億9千万円
長期共済保有高	7067億4千万円
主な農畜産物	宇治茶、京野菜 (九条ねぎ、万願寺とうがらし、 聖護院大根、えびいもなど)

どで抹茶を使った大福やパンが商品化されています。店主からは、「抹茶は、加熱しても緑色が鮮やか。香りもよい」と好評です。
また、抹茶ブランドを消費者に広く周知するため、10月から11月にかけて「抹茶濃レシピコンテスト」を実施。12月下旬の審査会を経て入賞したレシピを公開することで、同ブランドの消費者への知名度アップと新たな消費拡大を図る予定です。



「抹茶」は京都府（山城）産100%の宇治抹茶を使用

10月から11月にかけて実施した「抹茶レシピコンテスト」





トウデイズ

アグリニュース

「TODAY'S AGRICULTURE NEWS」 メインパーソナリティ 鈴村健一さん

JA Zenroh Weekly

特集

全農がTOKYO FM・JFN系列計38局で提供するラジオ

番組「TODAY'S AGRICULTURE NEWS」。その日の日本農業新聞

の紙面から注目のニュースをピックアップして紹介する番組です。

番組のメインパーソナリティで、声優や歌手、声優事務所経営

など多彩に活躍する鈴村健一さんに、番組の魅力や食・農に対す

る思いを聞きました。

【広報・調査部】

——「TODAY'S AGRICULTURE NEWS」の魅力はどんなところでしょうか。

僕らの生活にダイレクトにつながっている、それがこの番組の魅力だと思います。米の価格の状況とか新しい食品が開発されたとか、そういった生活に直結するニュースを取り上げていきます。一般の消費者の方々にはなじみのない農業に寄ったニュースでも、イチゴの重量や形状を

計測する専用機器のニュースを先日取り上げましたが、「スーパーで、何であんなにきれいにイチゴが陳列されて売っているんだろう」という、日常で感じることと関係あることなんですよね。食べることは生きること。食は、避けて通ることはできません。だったらおいしい物を食べたい、楽しく食べたい、と誰もが思うはず。そのために努力している農家の方々の存在を、一般の消費者の方々に

つなぐことが、この番組の大きな役割だと思います。

——もともとは偏食だったと聞きました。

すさまじい偏食でした(笑)。そのころのことを思い出すと、農家の方々に謝りたいですよ。食べられる野菜はジャガイモとダイコンくらいで、あとは一切口にできなかったですし、偏食を直そうとも思っていませんでした。東京に上京後、22、23歳くらいのことです。大好きな串焼き屋ができて、その店のメニューを全て制覇したくなったのですが、そこにナスというメニューがあつたんです。豚バラ肉の薄切りでナスを巻いたものでした。豚の油をじゅうじゅうに吸ったナス、それを初めて食

べたとき、あまりにおいしくて。それまではナスが一番嫌いな野菜でした。時間同じくして、中華料理店でマーボー豆腐を注文したら、店員さんの間違いでマーボナーナスが出てきた。「ナスを食べろ」と天から告げられたような、運命に感じて、店員さんに間違いは指摘せずそのままいただいたら、これもめちゃくちゃおいしかった。それで「自分は食わず嫌いだったんだ」と気づきました。それからおいしい物を食べたいと、食欲にお店も食材も探すようになり、なぜこんなにおいしいものが作れるのか、調理する人のこと、食材を育てた人のことも考えるようになり、ありがたみが増しました。食べることに自体に丁寧になった、そういう感じがしています。

——国産の食べ物への思いはありますか。

できれば国産がいいと常に思っています。値段の問題はあ

るかもしれないけれど、食料自給率は上げるべきだと思ってるし、絶対できると思っっています。消費者の方々が国産を選んで食べる、ということに価値を見いださないといけないと思います。例えばチーズでもカチョカバロとか、国産でもおいしい物が出てきていて、そうなると思えば比べるという楽しみもできます。

——番組で紹介したニュースの中で印象に残っているものはありますか。

先日、JA全農いわてがリンゴの品種を擬人化したポスターを作ったというニュースを紹介しました(リンゴの各品種のイメージを、和服を着た男性キャラクターなどのイラストで表現したポスターを作製したというニュース)。そのキャラクターに声を当てることになれば、私、やりますよというコメントを寄せました(笑)。声優は声優だけやっていけばいいとは思いま

せん。エンターテイメントは、もつと可能性が存在していると考えています。コロナ禍でイベントもできず、エンターテイメント業界は窮地にあります。それでも、エンターテイメントを止めないでという声が自分の下にも多く届きます。エンターテイメントは社会のためになっていく、という自信を持たなければいけないと思いますし、それを具体的に形にできたら理想です。だから、自分の声をリンゴ農家の方々の活性化につなげる可能性があるのではないか、そういうことを感じられるニュースは、すごくうれしいなと思います。

——農業関係者にエールをただけますか。

伝えたい思いは「感謝」、それが大きいです。毎日こんなにおいしい物を食べられているのは、それを作り育てている方々がいるからです。そして、この番組を通じて、思いを強くして

いるのは、本当にたくさんの方に気を付けないと、農業は続けられないということです。気候変動も鳥獣被害もコロナ禍も、最近では盗難被害も人手不足もある。それでも農業

を続けていらつしやる方々には、本当に頭が下がります。自身もいっぱい食べて、そして、たくさんの人たちに食べる喜びを、これからも伝えていくつもりです。

Profile
プロフィール

すずむら・けんいち 大阪府出身。声優としてアニメ「魔進戦隊キラメイジャー」・「魔進ファイヤ」や「おそ松さん」・「イヤミ」など多数の役で活躍する他、歌手としても活動、声優事務所・株式会社インテンションも立ち上げ、同社代表取締役を務める。「TODAY'S AGRINEWS」のパーソナリティーは2019年4月から務めている。

TODAY'S AGRINEWS の概要



- 放送局：TOKYO FM、JFN系列のFM局 計38局
- 放送日時：月～金曜日の6:30～6:35
- パーソナリティー：月～木曜日 鈴村健一さん 金曜日 山崎樹範さん(俳優)
- 番組ホームページ：https://www.tfm.co.jp/agrinenews/

番組ホームページはこちら



●番組内容：「ONE MORNING」(月～金の午前6～9時放送、一部地域除く)内で展開。その日の日本農業新聞から注目のニュースを選抜して紹介する他、JA組合長らが自己改革の取り組みを語るコーナー「前へ前へ、全力農業」も設けている。

新感覚グミ「コロコロ 八丈フルーツレモン」新発売

UHA味覚糖と全農が共同開発

全農はUHA味覚糖と共同開発した「コロコロ 八丈フルーツレモン」を、12月8日から全国のファミリーマート約1万6700店で発売します。【営業開発部】

八丈フルーツレモンは、果肉の酸味が穏やかで果皮に独特な香りがあるのが特長です。商品には果汁と果皮のペーストを使用し、酸味が穏やかな八丈フルーツレモンの独特な味わいを感じられるように仕上げています。

産地の東京都八丈島では1940(昭和15)年にテニヤン島から導入されたレモンの苗木が島内に広まりました。樹上で完熟させることで、果皮に苦味が少なく甘みを帯び、実も皮もまるごと料理に利用できます。また、通常のレモンより大きく、丸々とした見た目も特徴です。

全農は、今後もUHA味覚糖と共同開発を進め、国産農畜産物を消費者の皆さまにお届けするとともに、国内農業の振興を図ります。



山形県産「雪若丸」イメージキャラクターの俳優・田中圭さんがおすすめ「雪若丸に合うおかず」と「雪若丸」をセットで発売

山形県本部はJAタウン「小さなYAMAGATAマルシェ」で、県産米「雪若丸」イメージキャラクターの田中圭さんがおすすめする「雪若丸に合うおかず」と「雪若丸」(2kg)のお得なセットを発売しました。【山形県本部】

「小さなYAMAGATAマルシェ」はこちら



今年10月に行われた「雪若丸」の新CM発表会で、「田中圭が選ぶ!『雪若丸』おかずBEST3」が発表されました。1位は焼き肉、2位は卵かけごはん、3位は漬物という結果を受け、「小さなYAMAGATAマルシェ」では「季節のおすすめ漬物3点セット」と「卵かけごはん専用醤油付きセット」を発売。また、「雪若丸」のしつかりとした粒立ちと食感をよりおいしく楽しめる「山形牛カレー・山形豚カレーセット」も販売しています。

今後は、1位の焼き肉が楽しめる「山形牛セット」も取り扱う予定です。



新米の「雪若丸」と山形県産の漬物セット



CM発表会で「『雪若丸』おかずBEST3」を発表する田中さん

JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

JA全農あおもり

青森の自然と太陽の恵みをいっぱい受けて育った「サンふじ」の出荷が始まりました。「ふじ」は青森県藤崎町で生まれ、現在国内で最も多く栽培されている人気品種です。「ふじ」に袋を掛けずに栽培したものが「サンふじ」です。果実の甘味と酸味のバランスが絶妙で歯応えが良く、果汁もたっぷり。冷やすと一層おいしく食べられます。冷蔵庫などの涼しい所で保存し、できるだけお早めにお召し上がりください。



【お城とさくらとりんごのまじり】
サンふじ 約5kg 18玉【贈答用】……4600円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com